

## 産科・婦人科

巽 啓司

当院産科は、大阪府周産期搬送ネットワーク（OGCS）加盟施設として、産科救急受け入れ施設となっている。NICUの併設がないため早産や胎児疾患には対応できないが、年々受け入れは増加している。産科合併症は経過が急で、母体・胎児に重篤な異常をきたすことも多い。また様々な合併症をもつ妊婦も増加しており、非妊娠とは異なる病像を呈したり妊娠経過に重大な影響を与えたりすることがあるため、当院の該当診療科と連携して管理している。近年、出生率の低下とともに妊娠出産年齢の高齢化等により、いわゆるハイリスク妊娠の割合は増加の一途をたどっている。当院でもこの傾向は顕著であるが、ハイリスク妊娠の管理に際しては、胎児心拍モニタリング、超音波断層法、パルスドップラー法等により、間接的にはあるが子宮内の胎児の状態を把握し、必要な場合には遅滞なく介入を行う一方、異常なく経過している妊産婦はもちろん、様々な合併症をもった妊娠でも、できるだけ自然なお産を体験してもらえよう努力している。このように、新しい知識・技術を駆使して個々の症例に応じた適切な個別のリスク管理を行うことを通じて、より適正な診療体系を作っていくことが当科の基本目標である。また当科の特徴としては、AIDS診療拠点病院としてHIV/AIDS合併妊娠の管理にも積極的に取り組んでいる。

当院の婦人科診療の中心は「がん」であり、入院患者の多くは悪性腫瘍患者である。また大阪における子宮がん治療の草分けとして出発・発展し、全国でも屈指の婦人科がん治療施設として、世界婦人科連合（FIGO）の悪性腫瘍登録施設（わが国では5施設）に選ばれていた。また日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録を通じて、わが国における婦人科腫瘍診療の発展に貢献している。さらに、「がん患者の妊孕能や日常生活機能の温存」、「進行がん患者に対する化学療法を含めた集学的治療の効果」などを当面の課題として、手術術式の改良、手術適応の見直し、最適な補助療法の組み合わせの検討等を進めており、各種学会での演題発表や論文作成を通じて、その成果を順次公表している。一方、子宮筋腫や卵巣嚢腫等の良性疾患も多数取り扱っている。腹腔鏡下手術や子宮鏡下手術も積極的に取り入れ、術後後遺症の最少化、必要な機能の温存を考慮しながら、年齢や生活環境なども含めた個々の症例に応じた適切な治療法を提案し実施している。また、昨年始まった大阪府婦人科救急ネットワークの受け入れ施設として、可能な限り婦人科救急にも対応している。

当科は日本産科婦人科学会や日本婦人科腫瘍学会等の専門医研修施設として、若手医師の指導・育成を行っており、現在日本各地の医療施設で中心となって活躍している多数の専門医を輩出してきた。また各種臨床試験にも参加しており、新たな治療法の創出に貢献している。

### 【2015年度 研究発表業績】

A-0

Yoshida K, Yamazaki H, Kotsuma T, Takenaka T, Masui K, Yoshioka Y, Uesugi Y, Shimbo T, Yoshikawa N, Yoshioka H, Narumi Y, Tatsumi K, Tanaka E : Treatment results of image-guided high-dose-rate interstitial brachytherapy for pelvic recurrence of uterine cancer.Brachytherapy; 14(4):

440-8、2015年7月1日

Chigusa Y, Kawasaki K, Kondoh E, Mogami H, Ujita M, Fujita K, Tatsumi K, Takeda S, Konishi I :  
Simvastatin inhibits oxidative stress via the activation of nuclear factor erythroid 2-related factor 2  
signaling in trophoblast cells.J Obstet Gynaecol Res; 42(1): 36-43、2016年1月1日

A-3

松本久宣、上平朝子：エイズに見られる感染症と悪性腫瘍（18）浸潤性子宮頸がん。化学療法  
の領域、P.4-12、Vol.31, No.4、医薬ジャーナル社、2015年4月1日

岡垣篤彦、定光大海：GIS連携アプリケーションの作成による南海トラフ巨大地震の医療機関  
の被害想定作成およびDMATによる急性期医療対応計画策定。医療情報学、P.3-17、Vol35（1）、  
2015年4月10日

岡垣篤彦、上平朝子、谷口美由紀、多和昭雄：多剤耐性菌管理ソフトウェアの作成による耐  
性菌感染対策の実施とその効果。第35回医療情報学連合大会論文集、P746-749、Vol35 suppl、  
2015年11月1日

岡垣篤彦、上尾光弘、定光大海：救命救急外来用電子カルテ1年間の運用状況の分析。医療情  
報学、P.219-227、Vol35（5）、2015年12月15日

B-1

Okagaki A：Making FileMaker application for DMAT(Disaster Medical Assistance Team) rescue plan in  
the acute disaster phase of expected Nankai Trough megathrust earthquake Medical IT Professionals.  
FileMaker Developer Conference Cosmopolitan Hotel Las Vegas Nevada USA、USA、July 22 2015

B-3

岡垣篤彦、上尾光弘、定光大海：救命救急外来用電子カルテ1年間の運用状況の分析。第19  
回医療情報学会春季学術大会、仙台、2015年6月13日

岡垣篤彦、定光大海：首都直下型地震における医療機関の被災予測。第17回日本災害情報学  
会大会、甲府、2015年10月25日

赤木佳奈、伴建二、藤上友輔、渡辺美恵、矢口愛弓、寺田亜希子、木田尚子、頼裕佳子、松  
本久宣、岡垣篤彦、前田 栄、中森正二、巽 啓司：Trousseau 症候群を発症したが、手術に  
より劇的に改善した再発卵巣明細胞腺癌の一例。第53回日本癌治療学会、京都、2015年10  
月29日

岡垣篤彦、上平朝子、谷口美由紀、多和昭雄：多剤耐性菌管理ソフトウェアの作成による耐  
性菌感染対策の実施とその効果。第35回医療情報学連合大会、沖縄、2015年11月4日

伴 建二、矢口愛弓、田中稔恵、寺田亜希子、木田尚子、赤木佳奈、頼裕佳子、松本久宣、  
岡垣篤彦、巽 啓司、森 清：頻尿、排尿痛を契機に発見され、鑑別診断に苦慮した子宮頸

部腺癌の1例。第57回日本婦人科腫瘍学会、盛岡、2015年8月7日

#### B-5

矢口愛弓、田中稔恵、寺田亜希子、赤木佳奈、木田尚子、伴 建二、頼裕佳子、松本久宣、岡垣篤彦、巽 啓司：子宮頸癌術後放射線治療後に外腸骨動脈尿管瘻を認めた1例。第132回近畿産科婦人科学会、神戸、2015年6月27日

藤上友輔：術後放射線治療後に外腸骨動脈尿管瘻を形成した子宮頸癌の1例。研修医・修練医のための産婦人科サマーセミナー2015、大阪、2015年7月11日

岡垣篤彦：電子カルテのユーザーインターフェース。中部医療情報技師会研究会、名古屋、2016年2月20日

渡辺美恵：卵巣悪性腫瘍との鑑別を要した腹腔内遊離体の1例。第30回大阪温知会総会、大阪、2016年2月27日

#### B-8

岡垣篤彦、上尾光弘、定光大海：救命救急外来用電子カルテ～大阪医療センターのとりくみ～。国立病院学会救命センター長会議、札幌、2015年10月1日

巽 啓司：若年妊娠について。平成27年度「家族計画・母体保護法指導者講習会」伝達講習会、大阪、2016年1月21日